

企業を訪ねて 12

株式会社テクノリンク(理学療法機器、医療応用機器、電子応用機器の開発・設計・製造・販売)

■「製品の企画段階から設計・製造・販売・サービスまで“お客様の満足第一”を大切に!」

本学は2015年4月に工学部工学科(3学系・8コース)に改組しました。8コースの中に医療福祉工学コースを設けるなど、医工連携の教育研究に力を入れております。そこで、新潟県内で医療関連機器の開発製造を行っている新潟市秋葉区の株式会社テクノリンクの小林辰之代表取締役社長様をお訪ねし、医工連携のポイントや製品開発への熱い思い等についてお伺いしました。〔訪問日:平成28年2月22日(月)〕

聞き手◆確実にヒット製品を生み出しておられますが、製品開発でのポリシーや企業としての理念についてお伺い致します。

小林氏◇医療用機器や福祉機器等による健康的な社会づくりにつながる事業を行っておりますので、当然のことながら、製品の安全性が第一です。動作試験やデータ検証を徹底して行い、明確な効果が認められる製品しか社会に提供致しません。お客様が満足する付加価値の高い製品を提供し、社会に貢献することを経営の理念としています。

◆日常生活に欠かせない医療や美容に関わる製品に焦点を当てたスマートな事業展開の由来をお伺い致します。

◇会社設立時は、ファクトリーオートメーション事業を柱に据えてスタートしました。その後、次第に医療・美容の分野に取り組むこととなり、順調な事業展開が可能となりました。この分野での製品規格は、単に届出だけで良いモノと、高性能機器のように厚生労働省の承認を必要とするモノがありました。

設立当初、規格を満たすだけでは他社製品との差別化は困難と思いながら製品開発を行っているうちに次第に単に届出だけの製品規格を超えた質の高い製品が出来上がり、この製品を世に送り出すためには、厚生労働省の承認が必要であることがわかりました。その当時、県庁の担当者がこのような電子機器の医療機器は県内で前例が無いということで、県庁の方や公益財団法人医療機器センター(JAAME)と様々な協議をしながらようやく承認され、製品化にこぎつけたこともありました。世の中に無い製品の販売を軌道に乗せるまでには、時間と費用を要しましたね。

近年は、医療機器の他に美容やスポーツ関連製品へのニーズが多い状況です。特に、美容関連製品は、医療機器の10分の1程度の価格のものが多く、10万台以上を提供しています。

◆御社の製品は海外にも供給されていますが、国際特許の取得をはじめ海外展開する上でどのような点に特に留意されていますか?

◇製品づくりにおいては、お客様からの要望をできるだけ叶えるようにしています。良いものが完成しても、同じような製品が直ぐに世界では出回る事がしばしばですので、例えば、当社の製品で低周波治療器のテクトロンでは、真似されないように海外における知的財産管理を徹底したことがブランド化につながり、満足する結果が得られました。低周波製品は、出力波形を見れば技術者なら或る程度どのように開発したかが推測できますので、類似品対策として、ICの重要な箇所を消去したり、ソフトモリバースエンジニアリングされないような対策を講じました。



小林 辰之 代表取締役社長

聞き手：原 利昭 本学副学長（地域産学交流センター長）

1991年にはアメリカへ視察に行き、将来鉄道で利用されるであろうと思われる自動改札について知見を得て参りました。現在はICのタッチ形式となっていますが、その当時は人がゲートを素通りする仕様でした。この形式は、心臓ペースメーカー使用者への対応をはじめ様々な対応を要することもあって試作品を作ってみました。改札装置としての採用には至りませんでした。また、病院や介護施設では、高齢者が夜中に徘徊するケースが見られることもあり、衣服にタグを着けて居場所の確認を行うことを考えた経験があります。ただ、プライバシーの問題や着衣等のドライクリーニング時での対応を考えると、やや難しい部分もありました。

このように、当社は社会の流れよりかなり先を読んだ開発を構想する姿勢を維持していますが、時には、早すぎて当時の社会が追いついて来ないこともありました。

◆人材教育に対するお考えや若者に対する期待等をご披露頂ければと思います。

◇何事においても誰かからの指示を待つだけで、受け身の姿勢が目立つ若者が多いように思います。当社は開発業務が大きなウエイトを占めているため、果敢に挑戦し、粘り強く成し遂げる意欲を持つことが若者には必要と考えています。また、自社製品の差別化のためにも、私は、良いと思うような他社製品に対して、分解して構造を研究することも必要と考えています。更には、レポートを作成する際には、まとめ方が出来ていないと取り組んできたことのデータ化やノウハウの蓄積が難しくなります。調べものも、ただインターネットで検索するだけでは事実かどうかを判断することが不十分な場合もあり、自分で確認する必要があります。ものづくりを面白いと考え、開発から製造への熱い思いを持った社員と一緒に仕事をしたいと常に思っています。

◆お忙しい中、大変意義の有る貴重なお話をいろいろとお聴きすることが出来ました。ありがとうございました。